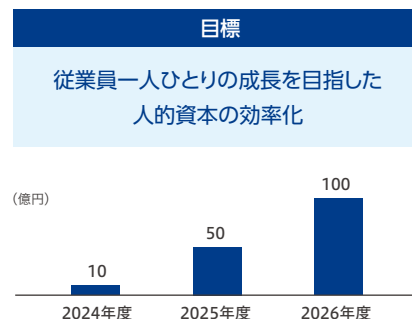


ベストプラクティスプロジェクト

ベストプラクティスプロジェクトは、2024年度から本格始動したプロジェクトです。これまでは社内の知見でコストダウンを実施してきましたが、このプロジェクトでは、「コストベンチマーク」や「最適なコストダウン手法」など社外の知見を全面的に活用し、社長直轄体制で徹底的にコストダウンに取り組んでいきます。また、専任チーム「ベストプラクティス推進部」を立ち上げ、社内プロジェクト推進体制を整えています。

このプロジェクトの推進により、2024年度は年間10億円、2025年度は年間50億円、2026年度には年間100億円以上の成果獲得を目指します。また、これに加え、業務効率化と従業員一人ひとりの成長を目指した人的資本の効率化も実現します。



これまで

社内の知見でコストダウンを実施

ベンチマークなど社外知見を全面的に活用し、社長直轄体制で徹底的にやり切る



ゼロベースでの見直し

- 必要性、コストの妥当性徹底検証



全体最適化

- 横連携の徹底、全体最適の追求



科学的アプローチの徹底

- 事実とデータに基づく合理的なコストマネジメント



体制

- 社長自ら全体リーダーとしてコミット
- 専任組織「ベストプラクティス推進部」設立
- 各施策チームに数値責任を負うオーナーを任命



ガバナンス

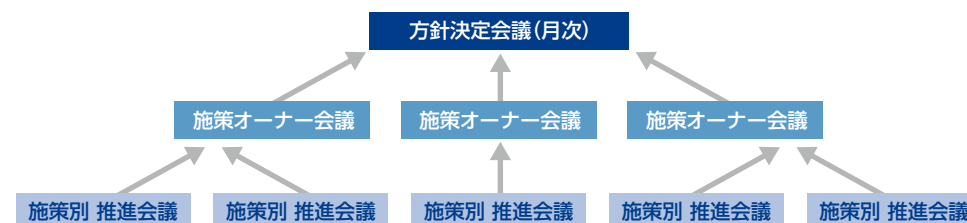
- 厳格な進捗管理、適時成果を可視化
- 月次方針決定会議での目標、施策のトップ承認



エンゲージメント

- 全社員の巻き込み、経営と社員の徹底的な対話
- 成果の一部を従業員へ還元

ベストプラクティスプロジェクトの推進体制



ベストプラクティスプロジェクトの推進体制は、取り組みをいくつかの施策に分け、それぞれにオーナー、リーダー、メンバーを任命して進めています。

会議体は方針決定会議と施策別会議で構成され、方針決定会議は社長を含めた経営層が出席し、経営の意思決定の場として月次で開催されます。

一方、施策別会議は施策チームが主体となり、施策ごとのオーナー（役員クラス）が実行責任と目標達成の責任を負います。オーナーの指示の下で、施策リーダーが施策実行の責任を持ち、全社への展開と効果の発現を担います。

メッセージ

ベストプラクティスプロジェクトは、「コスト」と「業務」の2つの最適化を目指す取り組みです。網羅的なデータ解析に基づくコスト低減余地の洗い出しや、効率化に関する先進事例のベンチマーキング等の新たな手法の導入、推進組織やマネジメントシステムの整備など、これまでのコストダウン活動を大きく進化させた取り組みであることが特徴です。

このプロジェクトでは「2026年度100億円の利益改善」という高い目標を設定していますが、同時に「ベストプラクティスの追求を会社のカルチャーにすること」が私たちの目指すべき究極のゴールだと捉えています。そのため、全従業員が明確な目標を見据え、コスト意識・効率化意識を高め、弛まずに取り組む続けることが必要です。当部においては、コミュニケーションや課題対応を通じて、本プロジェクトの成功に貢献していきたいと考えています。

当社が持続的に成長し続けるための基盤強化策の一環として本プロジェクトの役割は極めて重要ですが、そのような重要施策の一翼を担うことにやりがいを感じながら、チームで力を結集し取り組んでいます。



ベストプラクティス推進部長

さかもと へいすけ
坂元 平祐